

## 令和 8 年度当初予算会見 議事録

**日 時** 令和 8 年 2 月 12 日 (木) 15 時から 15 時 45 分まで **場 所** 特別会議室

**出席者 (市)** 市長、副市長、技監、企画経営部長、財務担当部長、総務部長、経営改革担当部長、上下水道局施設部長、上下水道局経営企画課長、市立病院経営統括部次長、財務・経営改革担当次長、財政課長

**出席者 (報道機関)** 朝日新聞社、神戸新聞社、毎日新聞社、読売新聞社

### 1 市長の冒頭発言

今回の予算は、私が就任してから初めてとなる、1 年間を通した予算編成です。

ご存じのとおり、本市の財政状況は依然として厳しく、特に令和 8 年度は新ごみ処理施設の建設事業費が 100 億円を超える見込みで、多額の財政調整基金の取り崩しが予測されていました。そのため就任後は、これまで積み残されてきた課題を中心に、市民の皆さまとの対話を重ねながら、聖域を設けない行財政改革を進めてまいりました。その結果、一定の収支改善は図れたものの、基金取り崩し額の大きい、非常に厳しい予算編成となっています。一方で、私の進める行財政改革は未来志向のものであり、単に負担を増やす、あるいはサービスを削るだけでなく、時代に即した政策への転換を図る第一歩となる予算も盛り込んでいます。ここからは、そうした「種まき」の主な事業についてご説明します。

まず子育て・教育分野です。国際バカロレア教育の導入に向けた調査研究費として 117 万円を計上しています。幼稚園から中学校までの連続性・一貫性のある教育として、市内全域から通学可能な特認校制度を持つ西谷地域での導入を目指し、先進市視察や研修を行います。次に、放課後の居場所づくりとして 4,402 万 8 千円を計上しています。放課後児童クラブの待機児童が課題となっているため、民間クラブの新設整備に加え、これまで非営利事業者に限っていた参入を営利事業者にも広げ、多様なニーズに対応した包括的な取り組みを進めます。

健康福祉分野では、高齢者福祉として介護予防普及啓発事業に 489 万 9 千円を計上しました。短期集中リエイブルメント型の通所・訪問等モデル事業を実施し、生活機能が低下した高齢者に対し、通所と訪問サービスを組み合わせて自立した生活の維持を支援します。また、地域生活支援事業として 466 万 6 千円を計上し、医療的ケアが必要な方の緊急時の短期入所先の確保など、支援体制の整備を進めます。

安全都市基盤では、公共交通に 4,000 万円を計上しました。バス路線の減便・廃止が課題となる中、北部地域の阪急バス武田尾線が次年度末で廃止されるため、新たな事業者による試験運行を行い、持続可能な移動手手段の確保を目指します。

観光・産業・文化分野では、手塚治虫生誕 100 周年に向けて 300 万円を計上しました。

関係機関と連携したイベント企画に取り組むとともに、花のみちから文化芸術センター周辺を漫画・アニメの聖地とすることを目指し、民間事業者と協働した実証実験やニーズ調査を行います。以上です。

## 2 質疑応答

(記者) 今回の予算に命名すると、どのような名前になりますか。

(市長) 「種まき予算」と呼んでいます。財政情勢が非常に厳しいので、どうしても行財政改革が中心にはなってくるのですが、かといって新しいことをしないわけはありません。比較的少額ではありますが、宝塚市の新しいあり方として、今後端緒となる部分を少し充実させたいと考えています。例えば教育では、国際バカロレア教育を通して学びを考え直す。また福祉では、従来から申し上げている「弱者救済から自立支援へ」という言葉のとおり、介護予防普及啓発事業において、自立支援につながる「予防」という観点を強調した予算を確保しています。にぎわい創出としては、手塚治虫生誕100年に向けた予算も確保しています。公共交通の維持もしっかり行わなければなりません。正直、大きな「売り」になる部分は少ないかもしれませんが、将来のための種まきという形だと思っています。

(記者) 市長就任後、当初予算を組むのは今回が初となりますが、自身でリーダーシップをとって予算を組んでみた感想をお聞かせください。

(市長) 非常に厳しい財政状況なので、正直に言うとそれほど裁量権がない予算だと思っています。持続可能な財政運営のために、もともと多額の想定だった財政調整基金の取り崩しをできるだけ減らす。つまり、膨れ上がっていく歳出をどうやって減らしていくかということに、今もなお苦心し続けているというところでは。昨年度から行財政改革を進め、一定の効果はありましたが、一方で物価高騰の影響が非常に強い。「なんとか波をかき分けて進もうとしても、また大きな波がやってくる」というような、厳しい状況だというのが正直な感想です。

(記者) 市長が描いていた予算のデザインは、どの程度反映されたと思いますか。

(市長) 就任前から厳しい財政であることは覚悟していました。ある意味、就任2年目ということの予算で見ると、「正直、こんなところかな」と思っています。

(記者) 自己採点すると何点くらいでしょうか。

(市長) 皆さんにつけていただくものだと思いますが、80点くらいですかね。

(記者) 行財政改革で収支改善に一定の効果があったとのことですが、現段階で具体的にどの程度の額の効果が出ているか教えてください。

(担当) 市長就任以降、「聖域なき精査」に取り組まれ、予算に反映した分として一旦集計した数字は、歳入の増と歳出の減を合わせて「7億7,038万2,000円」となっています。これは市長が議会や市民の皆さまとの対話で説明し、積み上げてきた数字です。

(記者) それは来年度予算に反映された数字ということですね。

(担当) その通りです。細かい事業の見直しは他にもありますが、市長が注力されてきた主要なものとしてこの額になります。

(記者) 道路について伺います。荒地西山線は令和8年度完成予定だったと思いますが、予定に変更はありませんか。

(担当) ご認識のとおり当初は令和8年度の完成を予定していましたが、現在工事している工区について、地下水などの水処理に手こずっており、2年ほど延伸する予定です。現在は令和10年度の完成を目指して工事を進めています。

(記者) 次に、競馬場高丸線について。資料に負担金6億2,000万円とありますが、工事自体は阪急電鉄への委託でしょうか。また総額はどのくらいになりますか。

(担当) はい、阪急電鉄に委託しています。全体の基本協定は今年度末に締結予定ですが、総額は約54億円、工期は約7年を見込んでいます。営業中の線路を通しながらの立体交差工事になりますので高額になりますし、物価高の影響も受けています。

(記者) 54億円は市が全額負担するのですか。

(担当) 国庫補助金をいただきながら進めていきます。

(記者) 「医療的ケア緊急受入事業」について、資料に市長の顔写真がポイントとして掲載されていますが、ここはどういった意味でのポイントでしょうか。

(市長) これは障<sup>がい</sup>碍児・者を抱えたご家庭が持続可能であるために、短期的・緊急的に入所できる「受け入れ先」の整備です。ずっと喫<sup>くわ</sup>緊の課題でしたが、ようやく民間事業所への委託という形で体制が整いました。私自身が国政レベルでも取り組んできたテーマですので、一つのポイントとして掲げています。ニーズは非常に多いですね。

(記者) 「国際バカロレア教育」について、現段階で何年後くらいにスタートできる見通

でしょうか。

(市長) 具体的な年数は明言しにくいですが、一般的には最短で3年程度と言われていきます。来年度中に「関心校」として手を挙げる雰囲気醸成できれば、そこから候補校を経て……という流れになります。最短で3年ほどかなと。

(記者) 手塚治虫生誕100年に向けて「漫画・アニメの聖地化」を目指すとあります。市長はどのようなイメージを持たれていますか。新しい像を建てたりするのでしょうか。

(市長) 新しい「モノ」を建てるというよりは、「人」が集まる場にしたいと考えています。手塚治虫記念館、文化芸術センター、文化創造館といった既存施設をフル活用し、手塚先生の作品を中心に、漫画やアニメ、映像に興味がある人々が集まれる場を作りたい、というのが意図です。

(記者) 「朝ドラの誘致」などはお考えでしょうか。

(市長) 今ここで正式にお話しすることはありませんが、朝ドラに限らず、ドラマ化など様々な形で取り上げられることはありがたいことですが、相手があることです。市役所主導というより、関連団体や市民の皆さまからそういう声が上がってくるような「場」を提供していきたいですね。

(記者) 「上下水道料金」について。資料を見る限り、値上げは避けられないように思えますが、現段階で料金改定について言えることはありますか。

(市長) 持続可能な事業運営を考えると、今後は値上げせざるを得ないだろうと思っています。ただ、現時点で具体的に言える材料はありません。

(担当) 4月から新しい水道事業経営戦略に切り替わりますが、そこで試算する中では、現状の経営では非常に厳しい状況です。4年に1度程度は、料金見直しの検証が必要になると考えています。

(記者) 市立病院の「ダビンチ」の運用がスタートしていますが、その効果はありましたか。

(担当) ダビンチを入れたからといって、診療報酬が加算されるわけではありませんが、最新機器があることで患者さんが「ここで治療を受けたい」と思ってくださること、そして医師が「最新機器がある病院で働きたい」と集まってくれること。その両面で一定の効果があると考えています。

(記者) 介護予防事業において、通所型サービスと訪問型サービスを組み合わせた取り

組みを行うとのことですが、これは「宝塚モデル」の一環に含まれるのでしょうか。

(市長) 広い意味ではそうかもしれませんが、文脈は少し違います。これは、生活機能が低下した方に対し、通所と訪問を緊密に連携させて、できるだけ早く元の生活に戻れるようにする「予防的福祉」の試行です。まずは数カ所のモデル地を選定して実施する予定です。

(記者) 「MICE 誘致」について、具体的なイメージはありますか。

(市長) 昨年、具体的な話があったのですが、競争で負けてしまったという経緯がありますが、宝塚市には他市に比べて宿泊施設が集積しており、観光資源もあります。シミュレーションを行ったところ、大規模なものは難しいですが、中・小規模の国際学会などを誘致できるポテンシャルは十分にあると自信を持ちました。

(記者) 市長自身についてはあったりするのでしょうか。

(市長) はい、個人的にもいろいろな大学にお声がけしています。

(記者) 先ほど「行財政改革による約 7 億 7,000 万円の効果」と発言がありましたが、具体的にどの事業の見直しが大きかったのでしょうか。

(担当) 市民の皆さまへの影響が大きかったものとしては、障害者（児）4 級の方への医療費助成の廃止で約 8,000 万円弱。70 歳以上のバスタクシー運賃助成の廃止で約 9,000 万円。障害福祉基金の積立凍結による約 2 億 7,700 万円を効果額としてそれぞれ積算しています。そのほか、システム標準化に伴う国からの補助金約 2 億 7,000 万円を歳入増として計算しています。

(記者) 「ナチュラルスパ宝塚」について。6 月末で指定管理を終了するとのことですが、その後はどうなるのでしょうか。

(市長) 老朽化や故障により修繕の必要があるため、まずは休館し、外部の業者等に入ってもらっていただき、どの程度の改修が必要なのか、今後どのような使い方ができるのかを検討していきます。

(記者) いつ頃に再開するのか目途は立っていますか。

(市長) 検証結果次第でどうなるかわ変わってくると思いますので、現時点では見えていません。

(記者) 「放課後児童クラブ」について。営利事業者が参入できるよう要綱の整備を行う

ということですが、いつ頃までに行うお考えでしょうか。

(市長) 要綱を変更するというよりは、スキームを追加するイメージです。年度内には方向性を固めたいと考えています。

(記者) 「部活動の地域移行」について。活動団体はある程度確保できたのでしょうか。

(市長) まだ流動的な部分があります。特に、文化系の団体は調整をしているところだと認識しています。また、地域移行後も、引き続き地域での受け入れを進めていくものだと思います。

(記者) 現時点で、宝塚ならではの特色あるクラブ活動が生まれる見込みはありますか。

(市長) 例えばバレーボールでは、サントリーでコーチをされていた、日本を代表するような指導者の方に加わっていただくといった例があります。また、一小校区ではまち協そのものが受け入れの受け皿となり、地域の中でさまざまな経験をされた人材を中心に学べるクラブを設置するとも聞いています。そういった点が、ある意味“らしい”といえますか、少しユニークな部分なのかなと思います。様々な工夫はありますが、もう一つ言うと、野球についてはスポーツ少年団などで積極的に体制を作っていたため、特別に大きく変わるというものではありません。ただ、地域でしっかり進めていける体制が整えられているとは聞いております。

(記者) 宝塚の良さはむしろ文化の方だと思いますので、例えば、手塚治虫にちなんだ「アニメ・漫画部」のような、宝塚唯一無二のクラブ活動があっても面白いと思うのですが。

(市長) いいですね、あったらいいなと思います。これも行政が強制するものではありませんが、地域の皆さんからそういう声が上がってくれば、非常にありがたい話だと思っています。

以上